

**【岡山県岡山市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	岡山県岡山市
担当課名	保健体育課
電話番号	086-803-1594

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	714,678人	部活動数	455部活
公立中学校数	中学校37校 義務教育学校1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済（検討会）
公立中学校生徒数	17,034人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済（推進方針） 策定準備中（推進計画）

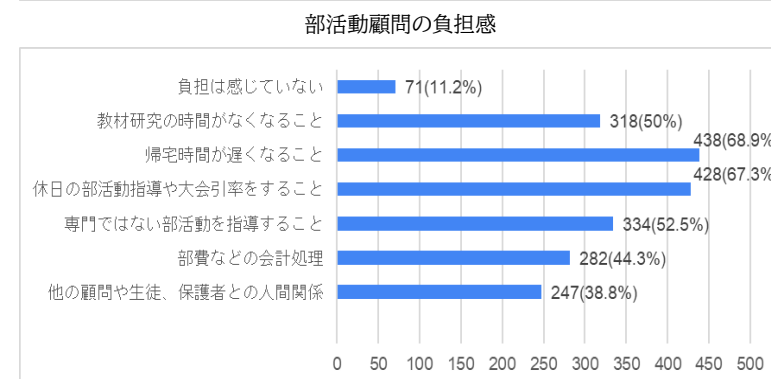
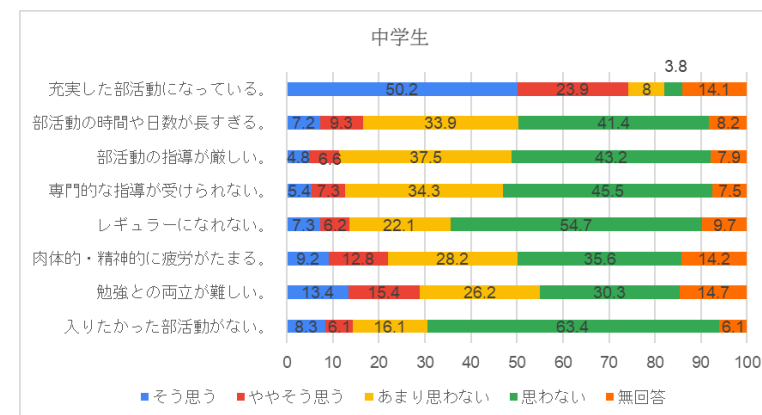
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は、少子化の進展により、中学校の生徒数や教職員数は減少している傾向である。それに伴い、部活動は廃部や休部、活動の縮小に追い込まれることが想定される。

生徒にとっては、現在の部活動が充実した活動になっている一方で、少数ではあるが自分のやりたい部活動がなく、あったとしても少ない部員数であることなどにより、活動が低調となり、魅力が感じられない状況が生じる可能性がある。このため、生徒の部活動離れを引き起こすという悪循環が生じ、部活動が衰退する恐れがある。

また、教職員の部活動指導に係る負担が増しており、学校における働き方改革が求められていることや、他方で生徒の育成は学校、家庭及び地域において担われている中で、地域のスポーツ・文化芸術団体や指導者、施設などの資源と学校との連携・協働が十分ではない状況もみられる。

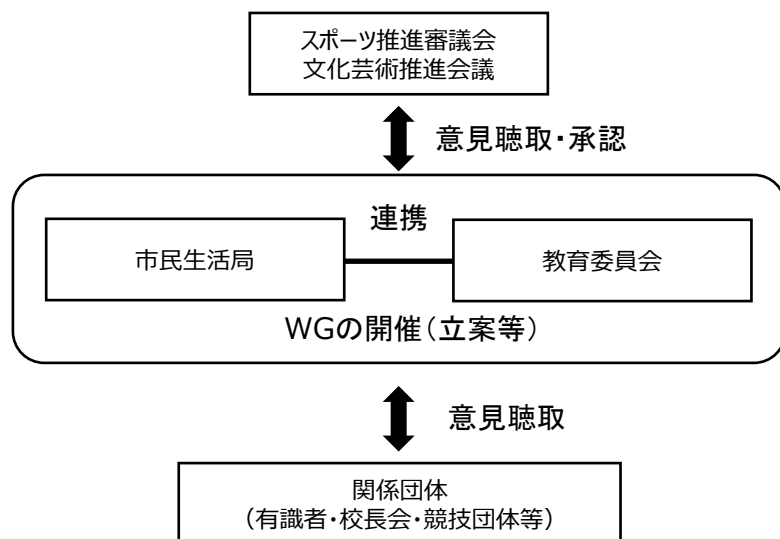
本市では、国の提言及びガイドラインの内容を踏まえ、令和5年3月に「岡山市立中学校部活動地域移行推進方針」を策定し、まずは休日の部活動から段階的な地域移行を目指している。（平日の地域移行も視野に入れ、できるところから取り組む。）その際、長年培われてきた「教師・生徒・保護者の関係性」や「部活動の教育的意義」を承継させつつ、関係者の理解を得ながら段階的に移行をしていくことが望ましいことから、当面は、学校部活動をベースに学校と地域が緩やかに連携していく形で取り組んでいる。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（保健体育課、学校指導課）
学校関係者への周知や理解促進、指導者への研修、部活動の現状とニーズ把握等
- **市民生活局**（スポーツ振興課、文化振興課）※市長部局
推進計画の策定、スポーツ団体等への周知や協力依頼、運営組織の検討・整備等

年間の事業スケジュール

時期	計画事項
4月	指導者と学校とのマッチング、指導者への任用前研修 指導者と学校との打ち合わせ
5月	指導者派遣開始（中旬以降）
6月	備前西地区中学校夏季体育大会
7月	岡山県中学校総合体育大会
8月	中国中学校体育大会・全国中学校体育大会・岡山市中学校総合体育大会 保護者・生徒・学校・指導者へのアンケート実施①
9月	第1回岡山市スポーツ推進審議会（進捗状況、結果検証・課題改善策、来年度の取組検討）
10月	備前西地区中学校秋季体育大会
11月	岡山県中学校秋季体育大会
12月	保護者・生徒・学校・指導者へのアンケート実施②
1月	第2回岡山市スポーツ推進審議会（進捗状況、結果検証・課題改善策検討）
2月	第3回岡山市スポーツ推進審議会（成果報告、来年度に向けた検討課題）
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

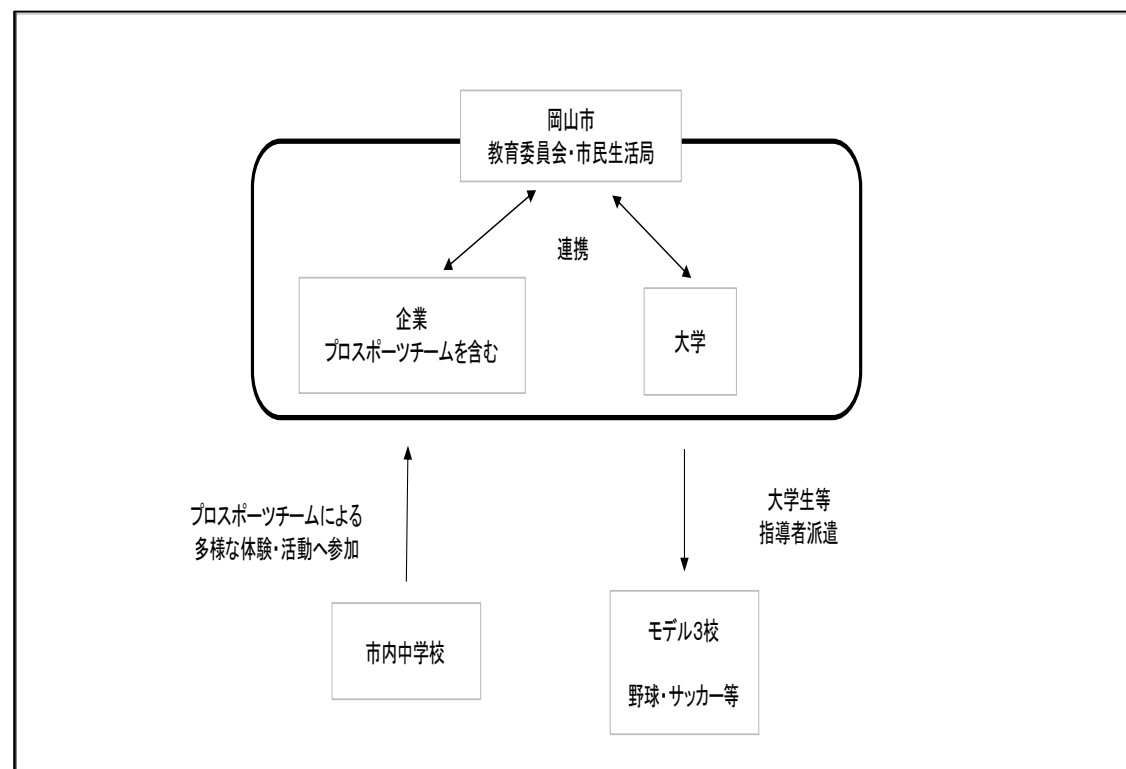
拠点校数	3 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上競技、バスケットボール、バレーボール、バドミントン野球、サッカー、ソフトテニス、卓球 柔道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	2 5 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	岡山市立岡北中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	9 部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、男子バスケットボール、女子バスケットボール、サッカー、野球、女子バレーボール、女子ソフトテニス、バドミントン
運営主体名	岡山市
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月 4 回程度 野球：月 4 回程度
指導者の主な属性	大学生
活動場所	岡山市立岡北中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1 人あたりの参加会費等（年額）	全種目：0 円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 指導者 1 人あたり：1,850 円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和5年度に市民生活局（スポーツ振興課）に部活動地域移行担当を3名配置した。また、教育委員会（保健体育課、学校指導課）や市民生活局文化振興課と連携・協力して、受け皿団体との連絡調整、指導者確保、研修の在り方、報酬支払いシステム等の運営体制の検証を行った。

取組の成果

週に1度、庁内WGを実施することで、地域移行に係る事業の成果や課題、進捗状況等を逐一共有しながら、協働的かつ多角的に取組を推進することが可能となっている。また、令和6年1月には、岡山市立中学校部活動地域移行に係る検討会を設置し、地域移行に関わる関係者および関係団体から幅広く意見聴取や意見交換を行うことで、今後の取組を推進していく上での一助となっている。

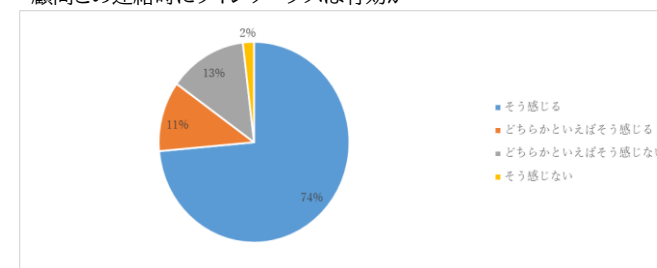
有識者・関係団体意見聴取



特に工夫した事項

学生指導者と中学校（顧問）、大学、行政の担当者間において、情報共有や事務手続き等が円滑に進むよう、「ラインワークス」（ビジネス版ライン）を活用している。携帯番号やラインアカウント等の個人情報を経由することなく、連絡調整等が可能であることは大変有益と捉えている。アンケートによると、学生指導者の85%が顧問との連絡時に「ラインワークス」は有効な連絡手段※右図と感じていた。

顧問との連絡時にラインワークスは有効か



【学生指導者へのアンケート】

今後の課題と対応方針

岡山市立中学校部活動地域移行に係る検討会は、今後も定期的かつ持続的に開催していく意向である。また、関係者間の連絡調整方法について、「ラインワークス」は上記の通り有効な手段であると考えられるが、機能的な面での有効活用や活用の頻度等については、まだまだ改善の余地があると考え、研修等を通じて、関係者により周知していきたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

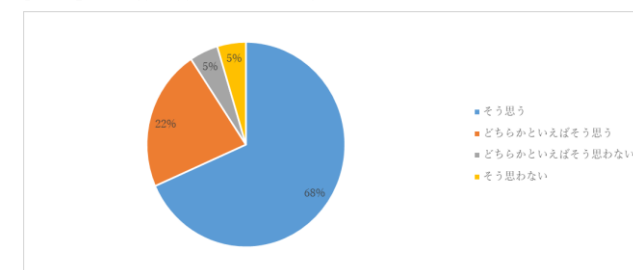
取組事項

岡山市に拠点を置く岡山大学および環太平洋大学と連携・協力し、学生を指導者として近隣中学校へ派遣した。また、事前に指導者へ資質向上のための研修を実施した。

取組の成果

岡山市立中学校3校（岡北中・京山中・瀬戸中）に大学生を88名（岡北中35名、京山中39名、瀬戸中14名）を派遣した。アンケートの結果、顧問からは、「技術指導をしてくれる人が来てくれるのは助かる」や「専門性を持ち、生徒との年齢も近い大学生が指導に当たってくれるシステムはとても良い」という意見が聞かれた。また、指導を受けた生徒の90%が、学生指導者の教え方は「丁寧で理解しやすい」と回答し、加えて86%の生徒が、学生指導者の指導を通して、自らの知識や技術、チーム力の向上を感じていた。

【生徒】学生指導者は丁寧で理解しやすい

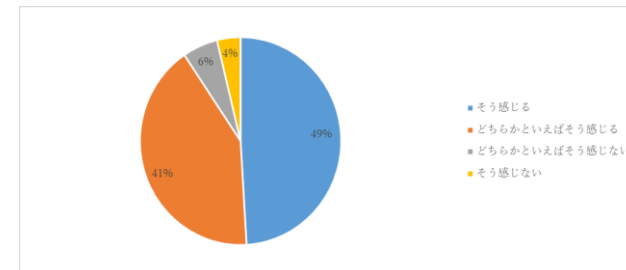


【生徒へのアンケート】

特に工夫した事項

派遣に伴う事前の研修においては、大学や中学校との研修内容を協議することで、研修の充実を図った。また、研修時にはスライド資料を活用して、視覚的支援を行うとともに、具体例を掲示することで、学校現場で指導する際の指導者としての意識や心構え、態度などをより深く考えられるよう工夫した。なお、学生指導者に実施したアンケートにおける「事前の研修内容は実際の指導時に活用できるか」について、90%が肯定的な意見であった。

【学生】事前研修の活用



【学生指導者へのアンケート】

今後の課題と対応方針

学生指導者に期待する声がある一方で、顧問教員や保護者からは指導面に対する不安感や派遣日数の少なさを指摘する声があった。そのため、学生指導者への研修回数の検討や研修内容の精選等を行うことで指導者の質を高めるよう努めるとともに、学校側に活動計画表の早期提出を依頼するなど、派遣日数がある程度担保できるような手立てや工夫を検討していく必要があると考える。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

大学やプロスポーツチーム等と指導者派遣や大学施設の利用等について連携を図る。

取組の成果

学生の指導者派遣については、大学側と連携会議を開催し、指導者募集の方法、研修会の内容などを協議して実施した。

また、3つのプロスポーツチーム（バレーボール、バスケットボール、卓球）との連携については、指導実施に係る日程調整や指導内容などを協議して指導者派遣を実施した。生徒や顧問からは、専門的な指導に対する高い満足度を得ることができた。



特に工夫した事項

プロスポーツチームの指導者派遣については、それぞれ1回ずつ、中体連の強化練習会の機会を利用し、市内各校から集まった生徒に対して指導を依頼した。

今後の課題と対応方針

学生指導者派遣については、学生への研修や部活動顧問との連携方法、勤怠管理などについての成果と課題について、次年度の取組についての検討を進めていく。

また、プロスポーツチームとの連携については、年間を通じた指導について、さらに協議を進めていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

生徒のニーズや受け皿団体の意見を踏まえ、多様なニーズに応じた取組を検討する。

取組の 成果

今年度、本市では生徒のスポーツの機会創出のため、多様なニーズに応じた取組の検討を進めてきた。
活動の受け皿団体として、プロスポーツチームを想定していたが、生徒のニーズの把握と分析、活動内容の検討までにとどまっているため、具体的な取組の実施までには至っていない。

特に 工夫した 事項

1 2 月に小学校 6 年生及び中学校 1・2 年生とその保護者、また、中学校教職員を対象に「地域移行に係るアンケート調査」を実施し、多様な活動についてのニーズ把握を行った。

今後の 課題と 対応方針

来年の実施に向けて、アンケート調査結果を基に、生徒のニーズに合わせた活動内容や頻度などについて、プロスポーツチームと継続して協議と検討を進めていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

モデル事業に係る収支を踏まえ、保護者負担経費について、既存の部活動における活動経費との比較を含めて検討を行う。

取組の成果

大学生指導者派遣についての一例として、A校の陸上競技部（部員20人）へ月6回、1回あたり4時間で指導者4人を派遣した場合、指導者への謝金と保険料を合わせて、生徒一人あたり月約1,800円の負担となることがわかった。
参加人数によって、一人あたりの経済的な負担に格差が生じることが課題である。

特に工夫した事項

モデル事業による保護者負担のあり方を検証する観点から、係る経費については、全額公費負担とした。

今後の課題と対応方針

本市では、令和11年度から休日の部活動の完全移行を目指す方針のため、平日に行われる部活動は、当面の間継続される。部活動の継続と地域スポーツ活動の推進には、保護者負担が欠かせないものと考えられる。保護者の費用面での負担軽減のための財政支援などを今後も検討していく。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

子どもたちがスポーツや文化芸術活動に親しみ
様々な体験をする機会を守るために

学校部活動を 地域全体で支える 取組をはじめます



児童・生徒
保護者のみなさんへ

◆ なぜ取り組むの？

少子化が進む中、休部や廃部など
学校部活動の縮小が見込まれ、維持
できなくなるおそれが生じています。
学校で支えてきた部活動を地域も
一緒に支えることができる環境づく
りを進めていく必要があります。

◆ 国の方向性

まずは、休日部活動から
スポーツや文化芸術に関する様々な
人材・団体と連携しながら、計画的
に環境づくりに取り組む方針を示し
ています。

◆ 岡山市の取組み

学校部活動をベースに、学校と地域が
協力・連携した取組をはじめます。
(具体的な取組み)

- ・地域の人材を部活動に派遣し、学校の
部活動顧問とともに、指導にあたる。
- ・部員数の少ない部活動において、近隣
の学校との合同化を図る。
- ・競技や種目等にとられない活動や、
レクリエーションのような活動など、
新たな活動ができる場の可能性につ
いて検討する。

◎モデル事業をスタートします。

◆ 令和5年度のモデル事業では どんな取組みをするの？

休日の部活動に指導者を派遣します

【指導者】スポーツ・文化芸術団体や大学などから

【内 容】原則、学校部活動として活動

顧問の先生とともに指導

【その他】モデル事業に係る保護者の費用負担はなし

令和5年度 モデル事業実施予定校

- ・京山中学校
- ・岡北中学校
- ・瀬戸中学校
- ・瀬崎中学校
- ・操山中学校 (※)
- ・光南台中学校 (※)

(※) 操山中、光南台中は、
男子バレーボール部で実施予定

あなたの力を活かしてみませんか？

中学校部活動を顧問の先生と一緒に 指導してくれる大学生を募集します



岡山大学
学生のみなさんへ

学校部活動を社会全体で支える取組をはじめます

◆ 岡山市の取組

学校部活動をベースに、学校と地域
が協力・連携した取組をはじめます。
(具体的な取組)

- ・地域の人材を部活動に派遣する。
- ・近隣の学校部活動の合同化を図る。
- ・新たな活動ができる場の可能性に
ついて検討する。

◎モデル事業をスタートします。

◆ 岡山大学との連携モデル事業

【活動場所】

京山中学校・岡北中学校

【内 容】

原則、顧問の先生とともに
休日の部活動を指導

【補 償】

岡山市の負担により、
スポーツ保険へ加入

◆ こんな指導者を求めています

□中学生とともに成長したい方

※部活動の意義を理解し、中学生への
指導を通じて、ともに成長しましょう。

□競技経験があり指導補助ができる方

※競技種目等の経験が必要ですが、期間
は問いません。また、顧問の先生と
一緒に指導します。

◆謝金をお支払いします

※時給は1,200円(所得税控除あり)

1回あたり、準備等を含め4時間の指導、
年間20回程度の活動になります。

京山・岡北中学校 指導者募集部活動

【京山中学校】
(運動部)

- ・水泳部
- ・バスケットボール部
- ・サッカー部
- ・バレーボール部
- ・ソフトテニス部
- ・卓球部
- ・柔道部
- ・剣道部
- ・吹奏楽部
- ・ダンス部

【岡北中学校】
(運動部)

- ・陸上競技部
- ・バスケットボール部
- ・バレーボール部
- ・バドミントン部
- ・剣道部
- ・吹奏楽部

【令和5年2月生徒・保護者への周知チラシ】

【令和5年5月大学生指導者募集チラシ】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【大学生指導者による指導（卓球）】



【大学生指導者による指導（野球）】



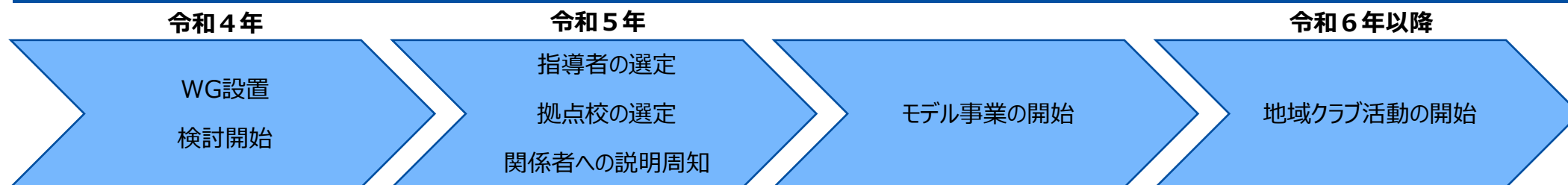
【プロチームによる指導（バレーボール）】



【プロチームによる指導（卓球）】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- ステークホルダー
 - ・教育委員会、市民生活局
 - ・学校（教職員、生徒、保護者含む）
 - ・大学
- 経過
スポーツ庁、文化庁から出された検討会議の提言を受けて、WGの設置による検討開始
- 実施にあたって生じた課題
 - ・取組内容とスケジュールの検討
 - ・検討委員会の設置
 - ・役割分担
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・中体連校長等、スポーツ推進審議会を含めた意見聴取
 - ・意見聴取を踏まえた立案
 - ・推進方針の策定
 - ・大学、プロチームとの連携会議
 - ・推進方針とR5取組のチラシによる周知

- ステークホルダー
 - ・教育委員会、市民生活局
 - ・学校（教職員、生徒、保護者含む）
 - ・大学、プロチーム、企業等
- 経過
指導者派遣を7月から実施開始
- 実施にあたって生じた課題
 - ・学生指導者の勤怠管理など顧問の負担軽減
 - ・学生指導者と顧問との連絡手段
 - ・指導者への謝金の支払システム
- 実施内容、工夫した点 等
 - ・学生指導者の勤怠管理は、顧問が紙による確認
➡来年度は、デジタル化による勤怠管理と支払を検討中
 - ・ラインワークスを活用した連絡手段の確立
➡活用を促進する取組を検討中
 - ・学生指導者への事前研修の実施

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

